



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



2014年度事業と予算が決定

4月12日、2014年度の年次総会がMJET事務局において開催されました。午後2時、委任状を含む会員16名の出席により、総会は成立し、直ちに議事に移り、2013年度の事業報告と決算報告が承認されました。続いて、2014年度の事業計画が審議されました。主な審議・決議事項は以下のとおりです。

- 2013年度の新規事業として、「ミャンマー祭り」に出展した。今後も毎年開催されるので、MJETとしても継続的に準備をし出展することとする。
- 今年度の役員体制は藤村会長(事務局長を兼務)、菊池副会長、神田理事、平湯理事、藤本監事が継続して留任し、牧野氏が岡本氏の後任として理事に推挙され、承認された。牧野理事は、藤村会長と共に組織強化企画・広報チームを担当する。
- 「国際協力理解促進事業」として、学生部と協力・協調し、5・6・7月に「バガン地方の持続的発展のための観光開発と農村開発」をテーマに勉強会を開催する。引き続き9・10・11・12月には「ミャンマー開発の進め方」に関する勉強会の開催を予定しているが、共同学習のパートナーとなる在日ミャンマー人留学生を確保すると共に、学生部を中心に勉強会の内容を検討していく。
- 本年度の「参加型エコツーリズム事業」のツアーでは、20~25名の学生が参加し、8月23日(日本出発)から8月31日(帰国)の旅程で、Kontankyi村で1,000本の植林を予定している。また現地にて「農村生活体験コース」と「ゴミ・ゼロ研究コース」等、学生部が主体となるプログラムを取り入れる予定である。
- 「ミャンマー青少年支援事業」については、MJYAが主催する日本語学校の学生を対象に約10人分の奨学金授与を予定している。
- MJETウェブサイトを改訂する。
- 学生部の会員を増やし活動をさらに活発にする。特に「ゴミ・ゼロ研究」の活動を開始し、力を入れていく予定である。

今年の植林ツアーは21名が参加予定

今年の植林ツアーには以下の21名が参加することになりました。

学生

法政大学	5名
玉川大学	3名
東京外語大学	2名
拓殖大学	1名
立命館大学	1名

社会人

MJET	4名
一般参加	5名
合計	21名

8月2日・9日に準備会合を開催

本年度の植林ツアー参加者のための準備会合を8月2日と9日に開催しました。場所は法政大学の富士見坂教室にて午後2時から5時半まで行い、2日の終了後には懇親会が開催されました。

以下のような項目の打ち合わせと練習を行いました。

- 1) 旅行準備の必要事項
- 2) ビルマ語の練習
- 3) 交流会の準備
 - ・手品の練習
 - ・歌の練習
 - ・フォークダンスの練習
 - ・盆踊りの練習



盆踊り(東京音頭)の練習風景(8月9日)



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



初夏の勉強会を開催

第一回:5月24日(土) 法政大学

1. バガン地方の観光開発協力

講師: 木村明広

〔国際協力機構、産業開発公共政策部〕

現在、JICA がミャンマーからの要請を受けて実施計画中の「バガン観光開発計画」の概要と課題を紹介していただきました。

2. バガン地方村落レベルのゼロ・ウェイスト研究プロジェクト

講師: 神田道男〔MJET 理事〕

MJET 学生部が中心になって計画している、インダイン村を対象とした研究プロジェクトの概要を紹介していただき、JICA の案件との関連や、留意事項について討論しました。



第二回:6月14日(土) 法政大学

1. バガン地方の持続的発展のための廃棄物処理対策

講師: 神田道男〔MJET 理事〕

インダイン村における廃棄物処理の現状を調査して、今後増大することが予想される固型廃棄物を村レベルで適切に処理するためのモデル構築について考えました。

2. ミャンマーの車窓から:ビデオで見る観光と交通事情

講師: 藤村建夫〔MJET 会長〕

ミャンマーの鉄道の窓から見える風景を描写した写真と動画を見て、人々の生活状況への理解を深めました。



第三回:7月19日(土) 法政大学

1. 責任あるエコ・ツーリズム (Responsible Eco-tourism)

講師: 中嶋真美、

〔玉川大学文学部比較文化学科準教授〕

WTO による「エコ・ツーリズム」は自然地域において、地域の多くの事柄を鑑賞し、学ぶことを目的とする観光形態とされている。これが持続的なものとなるためには、様々な関係者がホスト側とゲスト側の各々の立場において、自然の保護、維持、管理、廃棄物の処理等に可能な責任を果たすことが求められていることを知る機会となった。



モウラミヤインの町のゴミ

(どの観光地にもこのようなゴミ捨て場が見られる)

2. ミャンマーの教育事情

講師: テイテイ レイ

〔茨城大学工学部非常勤講師〕

ミャンマーの小学校、中学校、高等学校、大学の制度の概要に続いて、2011年の民政移管後、教育分野の改革が進行中で柔軟な予算配分が可能になったこと、高等教育審議会の設置、統一試験の運用方法の改善等、非常に多くの知識・情報が得られ、有益であった。

(下は仕切りのない4つの学年の生徒達)



(バガン近郊の村)



mjet

ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



ゴミ・ゼロ研究プロジェクト

古城 真理子(東京外語大学 4年)
八城 明弓(拓殖大学 4年)
藤村 建夫 (MJET 会長)
神田 道男 (MJET 理事)

学生部は、今年の研究プロジェクトとして、バガン地方の循環型社会の発展という観点から、環境改善のための「ゴミ・ゼロ研究プロジェクト」を立ち上げることにしました。

手始めに徳島県の上勝町を5月18・19日に表記の4名で訪問し、今後のMJETの活動の参考にするために、上勝町が取り組んでいる「ゼロ・ウェイスト」の概念と実践を視察しました。上勝町へは、羽田から飛行機にて徳島へ向かい、空港から徳島市内に出て、そこからバスで2時間弱ということで、待ち時間を入れると6~7時間かかりました。

上勝町では、有名な「木の葉ビジネス」のお話を聞いた後で、日比が谷ゴミステーションというゴミの集積所でもお話を聞きました。



日比が谷ゴミ集積所 分別収集されるゴミ



上勝町では「NPO法人 上勝ゼロ・ウェイストアカデミー」という団体が実際の運営しており、その特徴は以下のようなものでした。

- 町民は毎日、集積所にごみを自分で持ち込んでくる(=全曜持込み方式)
- ごみ集積場にも関わらず、生ゴミがなく、またすべてのゴミは洗ってから持参するため、ゴミ特有の異臭がしないところに驚かされた。
- 集積所で、町民はごみを全て34種に細かく分類して捨てる。リサイクルできるものは一定量になると、それを業者に買い取ってもらう。
- 業者が引き取ってくれないゴミは、最終的には、徳島県の処分場にセンターがゴミを持ち込み、費用を支払って焼却してもらう。
- プラスチックの処理は2つの方法がある。汚れていないプラスチックはリサイクル用に売却し、汚れたプラスチック類は固型焼却物として焼却ゴミとする。
- 家庭からの使用可能な不用品は、施設内にある『くるくるショップ』と言う無料の持ち込み施設に置かれる。村の欲しい人は、誰でもそれらを持ち帰ってよいことになっている。
- ゼロ・ウェイストの運動は、町長がリサイクルの仕組みを作ってリードし、町民は役場の仕事に協力する形で実施されるようになった。
- 自分でゴミを持ち込めない高齢者に対しては、2ヶ月に一度の割合で、アカデミーが、1回210円の契約で、ゴミ収集サービスを行っている。



廃棄埋め立てるゴミ 中古品として販売する店



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



ミャンマー・エコツーリズム紀行

黄金の岩(モン州:チャイテーヨー)

読者の方は、ミャンマーに奇跡の岩として有名なチャイテーヨーという「黄金の岩」があるということをご存知でしょうか？



<http://goldnews.jp/column/feature/entry-2000.html>

([ミャンマー] 奇跡の黄金岩“ゴールデンロック”を目指して)

ヤンゴンの北東約 200km(車で 6 時間)にある黄金の岩は、奇跡の岩として、ミャンマーの人々に知られています。その意味は、この岩に「〇〇がかないますように」とお祈りすると、願いがかなうという奇跡の岩として有名なのです。この岩は、大きな岩の上ののっぺりとして、落ちそうで落ちない不思議な力を持っています。

この岩に行くためには、途中のベースになっている町で自分達の車を降りて、日本製のトラックを改装したトラックバスに乗り換えて行く必要があります。

約 50 人が 1 台のトラックに 30 分ほど揺られながら、山を登っていくわけです。

一緒にトラックバスに乗った隣の主婦の方は、遠方のカチン州からやって来たと言っていました。彼女は、ビジネスをやる時に必ずお参りにくるそうで、今までに 7 回来たと言っていました。その度にビジネスがうまく行くので、新しいことをやる前には必ずお参りするそうです。



山に登るためのトラックバス

ヤンゴンの知人のビジネスウーマンも同じことを言っていました。願いを実現するためには、1 年に 3 回お参りしないといけないというので、3 回お参りしてみたところ、本当にうまくいったそうです。そのようにミャンマーの人達はこの黄金の岩を信じているようです。



私はアウンデインさんと、MJET の活動がうまく行きますようにと、お祈りしました。持続的なエコ・ツーリズムが成功するようにと！

(藤村 記)